

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		きりんのあくび kids なんば			公表日		2025年 1月 9日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		発達に合わせて、静と動の活動スペース準備している。 最近は間仕切りを作成し、環境整備に配慮している。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		特に問題はなし。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		新人職員にもわかるように業務マップを作成し、活動に合わせた美化と環境整備を行なっている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		使用できるようにはなっているが、その時の児童の発達や職員の配置に留意し、介入を行なっている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		3ヶ月の振り返りを意識している。 職員の働き方など常に相談できる環境を整えている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所内で回覧を行い、その時の状況に応じたのミーティングを行なっている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		3ヶ月の振り返りを意識している。 職員の働き方など常に相談できる環境を整えている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者による外部評価の実施を検討する。 事業者内では他事業所の評価を代表してSVが行なっている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修の強化やオンライン研修の実施は常に行なっている。また、法人研修もセラピストやSVを中心に行なっている。	管理者の研修を行い、コンプライアンスや意思決定支援など率先して職員が学べる環境を準備する。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページの立ち上げを行なった。	更新アップデートを適宜行なっていく。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		発達に合わせての作成を意識している。主には感覚統合理論を通しての計画作成を行なっている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童指導員・保育士・セラピストが中心になり発達の理解を深めている。	個別での取り組みや発達のストロングを芽生えの発見を強化できるよう、法人での研修を進めていく。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童指導員・保育士・セラピストが中心になり発達の理解を深めている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		児童の評価表を作成し、実施している。また、新人研修としても個人因子・環境因子の情報収集を義務付けしている。	児童の情報共有の強化を図っていく。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		家族支援や移行支援また地域支援など、事業所だけでは出来ないことが課題となっている。	協議する時間がお互いに取れないので、少しでも地域と繋がるような取り組みを思案していきたい。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		主にはセラピストを中心に行なっている。記録は職員みんなで作成し、添削などが行えている。	個々のレベルアップが必要。特に2年目以降の職員のモチベーションや療育の意識、知識の勉強会を実施していく。		

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		感覚統合理論を活かした、取り組みは順次作成し、実施している。また、戸外活動も保護者様から喜ばれている。	実施のロールプレイや振り返りなどがから、プログラムの意味や目的の理解を深めていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		児童の評価表より、その児童の課題ポイントを抽出し取り組みに活かしている。	集団活動をより、個別化の評価を行えるように改善していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼で児童の様子や最近の気づきを意識している。特に送迎員との連携を大切にしている。	保護者様との共有が全職員と行えるように取り組みを進めていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		記録等をまず優先し、環境整備が終わり次第共有を行うが、就業時間が超えないようには意識している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録は全職員で行い、添削を行なっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		特に運動・感覚に関しての「できた」を大切にしている。	コミュニケーションや社会性はその時の環境にも変化を伴うため、「できた」の共感が難しく感じてしまう。なので、できるだけ児童の変化を伝えるように意識している。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		主に『運動・感覚』をメインとしているが、運動からコミュニケーションを学べるように職員も意識した関わりが出来ている。また、感覚統合理論の理解を深め基礎感覚の調整により、情緒の安定・言語の理解などにも努めている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		意思決定の大切さは職員も意識が出来ている。主導権を児童に持たせ、関わりを行えている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童の担当制を行い、発達の共有を行なっている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			要望があれば面談や見学を行なっている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			時間の調整が課題である。こちらは要望があれば連携をさせていただきます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		出来ていないことはない。	時間の調整が課題である。こちらは要望があれば連携をさせていただきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		出来ていないことはない。	時間の調整が課題である。こちらは要望があれば連携をさせていただきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		主に相談支援員を通じて実施を行なっている。こちらから助言することもある。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			時間の調整が課題である。こちらは要望があれば連携をさせていただきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		法人より代表を決め必ず参加はさせていただいている。また、その後研修シートなどから共有もしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		目標を設定し、取り組みを行うがその時の児童のモチベーションや環境設定で逸脱は見られる。無理強いすることはないよう保護者との理解に努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			要望があれば実施するが、保護者様との時間のセッティングが課題になっている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		その時の状況にもよるが、契約前のインテークで法人の情報をお伝えしている。必要であればいつでも対応は行うようになっている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		出来ない要望には応えれないが、対応力は常に意識させていただいている。職員も理解し行動が出来ている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		自己評価からは喜ばれているので、今後も発達に合わせた介入と情報共有を行なっていく。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		要望があればいつでも対応は行うようにしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		要望があれば実施するが、保護者様との時間のセッティングが課題になっている。日曜日は営業をしていないので、祝日などで家族で活動できるプログラムを考えていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		その日のうちか次の日には必ず対応するようには意識している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		活動の様子は根拠にもなるので、写真の情報提供やブログ、Instagramを通じて発信をしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		職員には必ず、同意書と誓約書のサインをもらっている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		基礎研修で学べる対応は出来ている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		年に数回になるが、取り組みは行なっている。ただ計画からは逸脱してしまうので、今後の課題にもなっている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		周知が出来ていないことが多い。特に求められることもなかったため、職員用のものになっていた。	PC内でも誰でも確認できるように準備はしている。今後はマニュアルを通しての理解を進めていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		避難訓練や避難防具の確認などは4月と10月の研修で確認はしている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		表を作成し、間違いのない処置にならないように留意している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		表を作成し、間違いのない処置にならないように留意している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		発達理解、特製理解、見守りの中の関わり理解より、安全には留意している。また、ヒヤリハットや事故報告書の作成により、共有を行なっている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		家族様への周知が出来ていないこともあるので、再度お便り等でお知らせを行なっていきたい。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事例検討などを通して、職員との共有を図っている。	小さな気づきなども共有できるネットワークの作成が必要。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待に関しては今一番気を付けているが、無意識に事故を起こさないように知識も深めている。	身体虐待、性的虐待など職員との知識を深め、きちんと面談を行なっていく。事業所の働き方が心地いいものになっているか自己啓発に努める。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		無意識に行なっていないかということが重要である。必ず、逸脱した児童様には振り返りを行うようにしている。	上記と同じ。